

# Watching Carefully Special

取材・文／竹中聰・坂東寛士（本誌） 撮影／畠中勝也



「ありがとう。来てくれて…」。7月の上賀茂神社に、彼女はやつてきた。そのMCの最初に彼女・UAがこぼした一言は、本音だったに違いない。晴れた夜空に真円の月を臨み、舞台の上に立つ者も、舞台から見上げる者も、誰もが満月を愛るのが至高の祭、「京都、満月祭り」の3度目はまた雨に祟られた。夏の夜に楽しむような可愛いものではない、したたかな雨…。レインコート越しに打つ零は、容赦なく体温を奪っていく。「あのお、大丈夫…? なんか、ドロドロだよねえ…? 倒れる人とか、いませんか?」。会場を埋めたオーディエンスに問いかける。

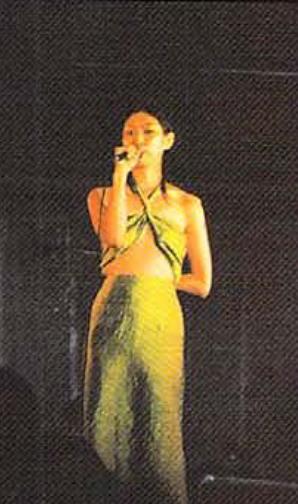
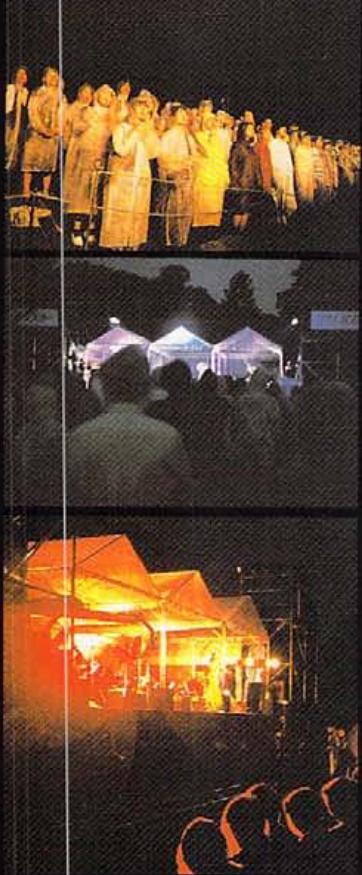
今宵の主役が、その10代の最後を過ごした京都の地。  
■「小学校・中学校・高校と通してずっと違和感があった。いい場所を求めて行動を起こした」  
その先に、嵯峨美術短期大学があつた。  
■「学園祭に遊びに行つたとき、出会った人々にファンキーな最近感を持つた」  
そして多くの時間を過ごすことになった京都。この街で彼女は何をしていたのか。どんな時間に、どんな場所で、何を考え、そして感じていたのだろうか。

■「学食では悩んでいた。友人の下宿先では嘔ることを頑張つていた。当時の彼氏の、(河原町丸太町あたりにあった)魔ビルのようない風変わった家では音楽を聴き、映画を観た。未来を夢想することすらできていなかつた気もするけど、楽しかった」

大学に通つていた頃は、恐らくこの上賀茂の社で自らが唄う事など、予想だにしなかつたろう。当時は京都のクラブ文化が花咲いた頃、ガーデンやメトロ、そして四条近辺にあつたクラブ、「CONTR

## 「京都、満月祭り」

UA@上賀茂神社  
with UA's Interview



A. 「キョウハトモダチガデルカラネ」とアメリカから週々上京のミュージシャン。ボブ&大学生のヒカリ。二人の関係は? 「アイジンデス(笑)」だそうです。B. ステージ正面、最前列のポールポジションを手にしたのは、某老舗にお勤めの奥村&大西の野郎コンビ、「俺たちが満月やねん!」と意味不明… C. 「バチンコ屋に財布忘れてきました…。カッパ買えないの~(涙)」と千尋(左)とコマちゃん、やむなく取扱隊がゴミ袋を差し上げました。D. ナースのウツチャンと大学生の加藤クン「広島からわざわざ彼女に会いにきました」が、時期的に学生の宿敵・テストのため早くも明日帰郷。ご苦労様デス。E. 異様な雰囲気を醸してたコイツラ、間に飲まれりや意外と目立たない迷彩集團。その正体は…「名古屋のレイヴ仲間で~す」。F. イベントにはつきもの「パトリオ」。じゃなくて、左からサロンオーナーのサチエとその手下のヤッチャン・ピース。店は任してきたって・大丈夫? G. 京都造形大生のユウコ(左)とミックコ。「雨対策は水着ですか?」と周囲の期待を一身に受け止めていらっしゃいました。

G

■「やつぱり雨だった…」メイクをしていた場所から車で会場に着いたとき、白いインコトを着たみんないが、雨に濡れて待ついてくれてるのを見て、「そして私はどうしよう?」「私に出来ること」をきかんと想うことができた。ステージに上がってからは広い場内を目の前に、そしてそこから大きな息を吐くよう、どこまでも飛んでゆけるようにしたいというような感じをイメージしていた。(会場内の)近くの人達の事はよく解ると思ったので、遠くの人達へ全然見えない間のような所でも、確実に居る所へ意識を強くした。しかし、つむじうライヴは雨ですが、あんな風に濡れながら歌えたのは初めてで、気持ちよかったです。

■「本懐を遂げる。とまで大げさなものではないけれど、青春の香り、汗、雰囲は『強い空間』だった」

そして、この日、一人のシンガーとして凱旋した京都。ライブ後のコメント。

■「もちろん思い出深々。ノスタルジックな部分もありますが、それとは別に、大人になるにつれ、歳をとるにつれ、京都の都というもの、優美・洗練・美意識…、そして何より土地の持つ底知れぬ力にますます感心になるばかりです。京料理のはんなりさこそ、見習いたい感覚です」

■「猫的都市」。手記の最後に彼女が京都を評した一言だ。それが何を指すかを示すのは、深遠な彼女の心の奥にしかないだろう。彼女の人生において、京都という街が重なるのは、嵯峨美術短期大学に通ったころだけだ。だが当時のひとりの少女が、ひとりの女性になり、言つ。

「私のクラブ活動において、すごくクールでカックイイお兄さん姉さんがいると思えた時代の代表的な思い出クラブのひとつ。毎年あつた『ウービーズ』での嵯峨美のダンスパーティ(ー)が楽しかった。当時は自分が歌手になるイメージ全くなかつた頃なので、直接的にはつながる出来事は無いのですが、色々な匂いと味とストーリーが、多大な影響となつて私に染みついておりました」

■「あまたまたすぐにでも行きたい京都。雨があんなに似合う街はそうないですの。でも次はドライに行きたいけれど…」

雨足は意地悪くも彼女が声を伸びず響きに比例して強くなる。時折見せる、南国に住む鳥のような彼女の歌声にのみ、オーディエンスは夏を想つ。「みんな、見えるよね?(満月)」という問い合わせにのみ月の存在を感じる。スピリチュアルな満月の夜は、最後まで厚い雲に被われたまま終わつたが、

女性の元に集うだろう。真夏とは思えぬ、肌寒ささえ感じるこの忘れられない満月の夜の思い出を撰えて。



**UA/Best Album  
「Illuminate ~the very best songs~」  
2003.09.17 Release**

2 CD / VCL-61197~8 ¥3,400(tax out)  
★初回盤のみ、幻のレアトラック集 8cm付

**UA/ Best Clip DVD  
「Illuminate ~the very best Clips~」  
2003.09.17 Release**

VBL-138 ¥3,800(tax out)

**DISC 1**

1. HORIZON
2. 太陽手に月は心の両手に
3. 情熱
4. リズム
5. 雲がちぎれる時
6. 甘い運命
7. 悲しみジョニー

1. HORIZON
2. 太陽手に月は心の両手に
3. 情熱
4. リズム
5. 雲がちぎれる時
6. 甘い運命
7. 悲しみジョニー
8. ミルクティー
9. 敬え足りない夜の足音
10. スカートの砂
11. ブライベートサーファー
12. 閃光

**DISC 2**

1. ストロベリータイム
2. ランドリーより愛を込めて
3. あめふりヒヤテス
4. TORO
5. ロマンス
6. 電話をするよ
7. アントニオの唄
8. サマーメランコリック
9. 赤いあなた
10. 水色
11. 大きな木に甘えて
12. 温度
13. ドア
14. 世界
15. 青空

**<LIVE INFORMATION>**  
2003.9.7 (SUN)  
日比谷野外音楽堂 OPEN 17:45 / START 18:30  
2003.9.23 (TUE)  
SWEET LOVE SHOWER 2003  
日比谷野外音楽堂 OPEN 14:30 / START 15:00